

時事解説

◇昭和23年7月8日 第3種郵便物認可◇昭和53年1月24日 国鉄首都特別扱承認新聞紙第519号◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)◇発行所 東京都千代田区日比谷公園1番3号 時事通信社 電話(03)591-1111◇郵便番号100 ◎時事通信社1979

時事通信

文化外交の精華



どんなことになるかと大いに懸念された日米首脳会談も、どうやら成功裏に終わって、大平政権は一つのハードルを飛び越えた感がある。今回の首脳会談ほど難問を潜在させていた日米交渉はなかっただけに、会談の背後にいた外務省首脳

の資金援助をするといったことでは、もはや目新しいこととして受けとられなくなってきた。

の努力が並々ならぬものであったことも察せられる。今回の日米交渉は、経済外交の難しさを教え、また、わが国の官僚が国際経済の専門家として大きく成長している事実を知らせてくれた。来るべき東京サミットのプレリユードとしては、絶好の機会でもあったといえよう。

それだけに、摩擦の多かった今回の日米首脳会談の冒頭、カーター大統領が大平首相に向かって、「私の娘のエミリーは日本の鈴木メソッドでバイオリンを学んでいます」と語ってくれたのは、まことに意義深いことであつたし、文化外交とは何であるのかを改めて考えさせられた。

しかし、首脳外交の影武者として、官僚層が大きな役割を演ずることには、大きな落とし穴があることもいうまでもない。事柄が専門化しすぎ、詳細にわたらずぎて、首脳者同士がステーツマンとして現代世界を論じ、現代文明を語り合うという首脳外交本来の姿が形が化してしまふからである。

「鈴木メソッド」とは、いうまでもなく才能教育の鈴木鎮一氏が始められたバイオリン教育法のことであり、「どんな子供でも母国語が話せるように、どんな子供でもバイオリンが上手になる」との信念を抱かれて、信州・松本の才能教育研究会を母体に、いまや全世界に広まっている音楽教育運動のことである。一般にはあまり知られていないが、才能教育研究会の成果は、鄧小平中国副首相初来日の際にも首相官邸で披露され、またアメリカではすでに十万人にのぼる子供たちが「鈴木メソッド」でバイオリンを

学びつつあり、カーター大統領は昨年、鈴木氏が率いたアメリカにおける日米の子供たちのバイオリンのすばらしい合奏を聴いて感激し、舞台上で登壇して鈴木氏に賛嘆の言葉を語っているのである。文化外交の重要性が唱えられて久しいが、それはもはや能、歌舞伎、また生け花、茶道などわが国の伝統芸能だけを一方的に輸出していい時代ではなくなりつつある。それだけに、バイオリン教育というような、わが国が西洋から受容しつつも、その獨創性のゆえに高い水準に達し、しかも普遍的な価値を有するものこそ、文化外交の精華たり得るのである。

「鈴木メソッド」は、そうした輝かしい事例であるが、顧みれば、それはあくまでも民間の「文化外交」なのであり、文化外交を唱えているわが国政府の外務省からも文部省からも、これまでなんら援助の手がさしのべられたことはなかったのである。

(中嶋嶺雄)

内容	
冷静にベトナムを振り返る米国………	2
成果上げた大平首相の訪米………	9
「経済摩擦」の文字は消えた	
英国に初の女性宰相誕生………	12
これが米ソの中東戦略だ(上)………	17